

各球団の総合満足度スコア

1. 各球団の総合満足度スコア平均値と平均値に基づくランキング 2019年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	広島	74.89	14.67
2位	ソフトバンク	74.05	15.02
3位	西武	70.95	16.17
4位	日本ハム	66.41	16.85
5位	横浜DeNA	65.85	13.73
6位	ヤクルト	65.31	15.79
7位	楽天	61.78	15.73
8位	ロッテ	61.65	15.32
9位	巨人	56.57	18.09
10位	阪神	56.29	17.57
11位	オリックス	53.45	18.98
12位	中日	48.36	16.92

2018年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	広島	74.06	15.00
2位	ソフトバンク	72.73	16.12
3位	横浜DeNA	67.34	15.18
4位	阪神	64.70	15.39
5位	楽天	64.56	16.28
6位	日本ハム	64.47	16.31
7位	西武	63.39	15.06
8位	ロッテ	60.41	15.50
9位	ヤクルト	56.61	17.02
10位	巨人	56.23	17.72
11位	オリックス	54.76	16.16
12位	中日	47.27	19.82

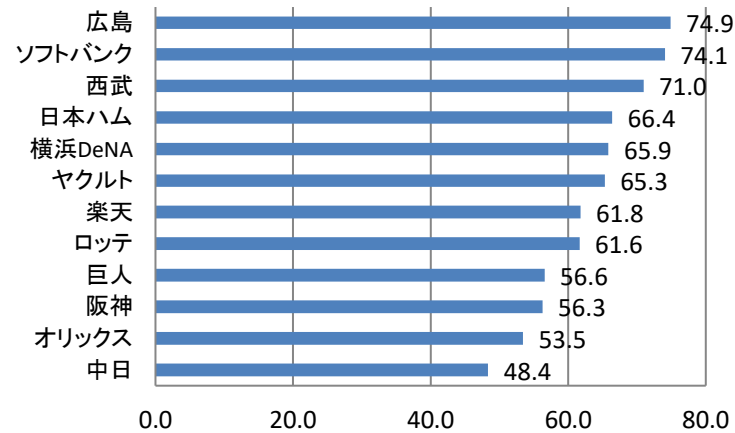
2017年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	広島	73.82	15.52
2位	ソフトバンク	70.84	15.01
3位	日本ハム	68.31	13.74
4位	横浜DeNA	64.84	16.21
5位	ロッテ	63.41	16.05
6位	楽天	61.91	15.17
7位	ヤクルト	61.05	15.18
8位	阪神	58.60	16.72
9位	巨人	57.94	17.13
10位	西武	57.55	17.31
11位	オリックス	50.18	14.69
12位	中日	43.41	18.80

2016年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	72.59	16.32
2位	日本ハム	66.45	15.09
3位	ロッテ	63.51	16.54
4位	ヤクルト	63.05	14.74
5位	楽天	62.92	14.79
6位	広島	62.47	13.90
7位	西武	61.37	16.25
8位	阪神	60.03	16.24
9位	巨人	59.42	15.86
10位	オリックス	58.43	17.09
11位	横浜DeNA	57.99	15.31
12位	中日	48.44	17.12

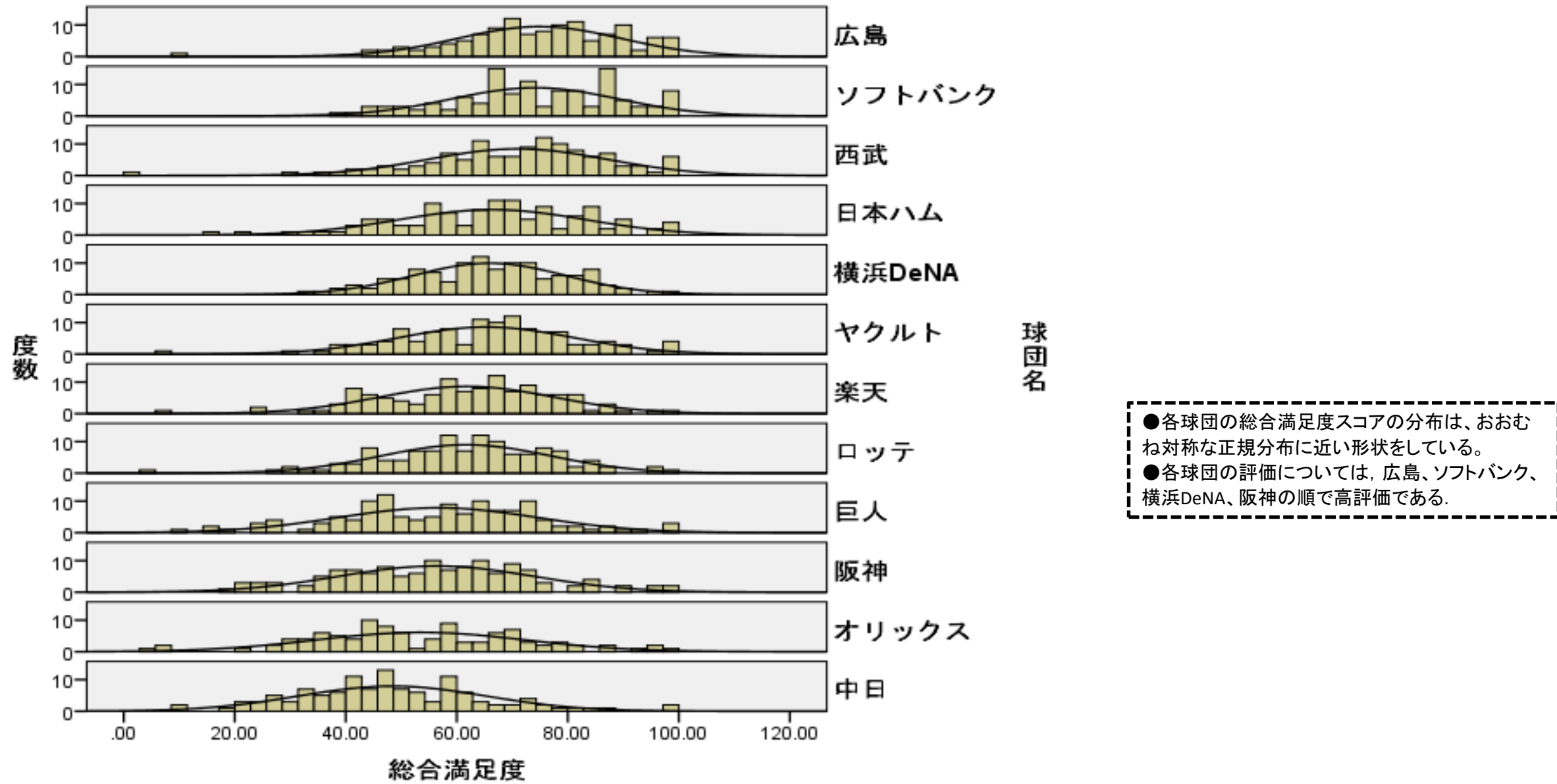
2019年1月下旬調査における各球団の総合満足度スコア平均値のグラフ



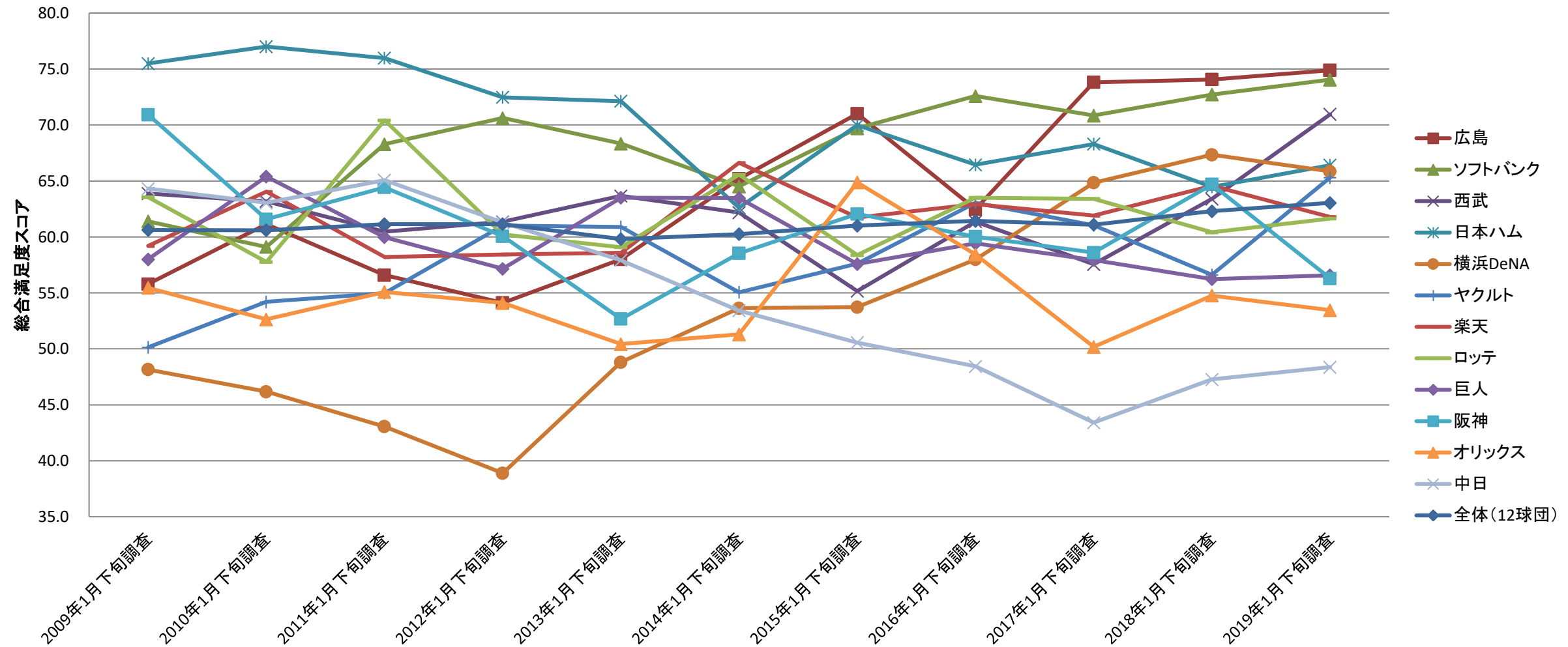
2つの球団のスコア平均値の差の検定: 5.0%最小有意差(l.s.d)の目安
 $l.s.d = 1.96 * \sqrt{2 * 15.0^2 / 120} = 3.80$
 ただし、スコアが正規分布に従い、各球団からのサンプリングが独立で、それぞれのサンプル数はn=120、標準偏差は $\sigma=15.0$ とした場合の値である。

- 総合満足度スコアは、共分散構造分析モデルから求まる「総合満足度の潜在変数スコア」を標準化したものである。
- 具体的には、「総合的な満足度」と「総合的に見た場合の理想への近さ」の2項目の評価に重きを置き、さらに「チーム成績」「チーム選手」「球場」「ファンサービス・地域貢献」「ユニホーム・ロゴ」等の項目の総合満足度への影響度を考慮しながら、各項目の評価の加重平均として算出している。
- これらの項目のウェイト(因子スコア・ウェイト)は、共分散構造分析モデルにもとづき求めている。

2. 各球団の総合満足度スコアの分布（2019月下旬調査）



3. 各球団の総合満足度スコア平均値の経年変化



■**広島**： 2019年1月下旬調査でも2年連続、4回目の総合満足度1位(74.9)となった。2018年シーズンでは、3年連続のリーグ優勝を成し遂げて、鈴木誠也選手、菊池涼介選手らの活躍も注目された。2009年の新球場への移転をきっかけにサービスが劇的に向上し、若手選手の台頭から「カープ女子」と呼ばれる女性ファンも急増し話題となった。近年はチーム力も向上し、高水準での総合満足度1位となっている。ただし、勝つこと、現在の高水準のファンサービスが当たり前になりつつあり、また、丸選手のFA移籍による影響など、懸念材料がある。

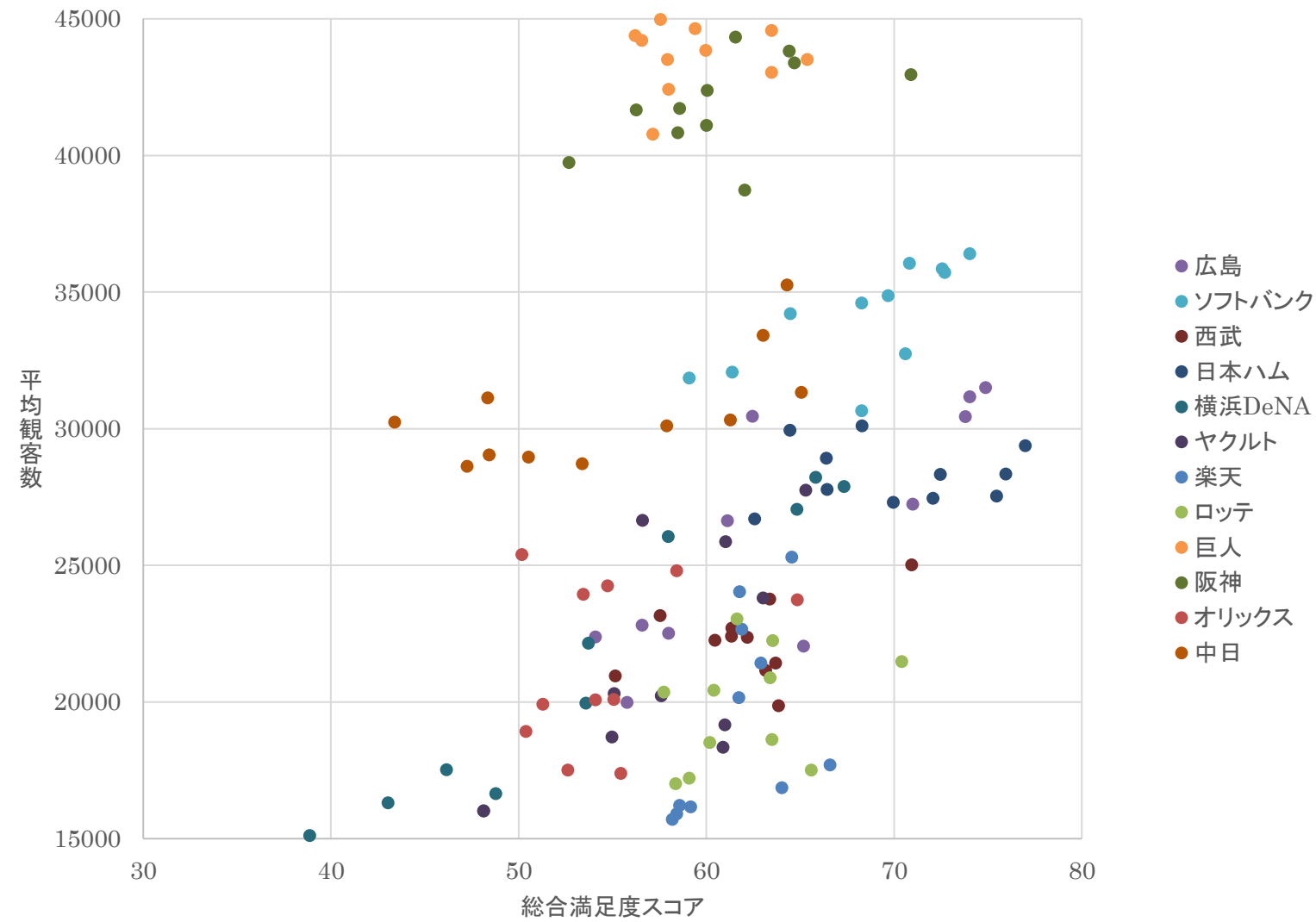
■**ソフトバンク**： 2019年1月下旬調査では総合満足度2位(74.1)となった。2018年シーズンではリーグ優勝は逃したものの、CSを勝ち進み、2年連続で日本一となった。チームの強さだけでなく、柳田悠岐選手、松田宣浩選手、今宮健太選手など魅力ある選手が健在である。球場でのファンサービス、地域貢献活動の取り組みも良いとされ、その結果が、チーム・選手の魅力、ファンサービス・地域貢献などが高い評価を得ており、総合力で高水準を維持している。

■**西武**： 2019年1月下旬調査では総合満足度3位(71.0)となった。10年ぶりにリーグ優勝を成し遂げ、秋山選手、山川選手、源田選手らの打撃陣の活用により圧倒的な強さが目立ったシーズンであった。球場の改修が進められており、今後のさらなるファンサービスの向上が期待される。

■**横浜DeNA**： 2019年1月下旬調査では4位(65.9)となった。リーグ4位となったことから昨年度より順位を下げた。一方、近年のファンサービス、球場でのサービスの向上の成果は出ており、回答者の声としても、親会社の球団経営、ファンサービスに対する熱意を感じているコメントが多い。筒香嘉智選手、宮崎敏郎選手、山崎康晃選手らの魅力ある選手の存在も良い。さらに、チーム力が向上し、優勝すれば、総合満足度1位となることを期待される。

4. 総合満足度スコアと平均観客数の散布図
(11年分の調査データと直近のシーズンのホーム球場の平均観客数を使用)

ホーム球場の平均観客数
出典:「2009-2019 ベースボール・レコード・ブック」、ベースボール・マガジン社



球団ごとの群が存在するが、おおむね、総合満足度スコアと平均観客数の間には正の相関がある。相関係数は $r=0.268$ (1%有意)となった。